

# かざくまで飾り熊手まちがいさがし

これは、博物館に展示している巨大な飾り熊手です。葛飾区では明治時代から、農業の副業としてこのような飾り熊手を作る人が多くいました。

ひだり 左 と みぎ 右 の写真で違うところが8つあります。見つけたら みぎ 右 の写真の違うところに○をつけてね。



くまでせいさく きよた としお  
熊手制作: 清田 敏雄さん  
なが はば  
サイズは、長さ 3.2メートル、幅 2メートルあります。  
とり いち う さいだい  
酉の市などで売られているものとしては最大の大きさです。

葛飾区郷土と天文の博物館

## かざくまで飾り熊手とは?

いろいろな説がありますが、もともと秋の収穫祭で売られていた農具である熊手が、いつの間にか縁起物として飾られるようになったようです。熊手の形が鶴が獲物をつかんでいる様子に似ているため「福をつかむ」という意味や、落ち葉などを集めることから「福をかき集める」という意味があるようです。



## くまでかざさしもの 熊手を飾る指物について

じだい もの  
時代とともにいろいろな縁起物が飾られるようになりました。この飾りは“指物(さしもの)”と呼ばれ、それぞれに願いが込められています。たとえば…



おかめ  
「お多福」とも呼ばれ、福を招く。



きんちゃく  
お財布のこと。  
お金がたくさん入る。



こづち  
ふればなんでも好きなものが出る。「めでたい」



鯉(tai)